

## 第4回伊那市地方創生総合戦略審議会 会議録

開催日	平成27年8月28日(金)			
開催時間	開 会	午後2時	閉 会	午後4時
開催場所	市役所 501・502会議室			
委員出席者	上伊那森林組合	伊藤 清		
	伊那市金融団	矢島 充博		
	伊那商工会議所	唐木 和世		
	伊那市議会	伊藤 泰雄		
	旧伊那市区区域長会	赤羽 仁		
	高遠町地区区長会	守屋 和俊		
	長谷地区区長会	池上 敏明		
	上伊那農業協同組合	矢島 洋子		
	長野県経営者協会伊那支部	高嶋 厚		
	地域交通事業者	板山 準治		
	連合長野上伊那地域協議会	日比野 誠		
	伊那市社会福祉協議会	小嶋 早苗		
	伊那市教育委員会	松田 泰俊		
	中部PTA連合会	下島 英喜		
	伊那市保育園保護者会連合会	小澤 篤		
	信州大学	林 靖人		
	公募	二瓶 裕史		
欠席者	伊那青年会議所	池上 裕平		
	伊那市観光協会	向山 知希		
	伊那市女性人材バンク	唐澤 桂子		
委員以外の出席者	上伊那地方事務所地域政策課長	池田 隆義		
出席した事務局職員	総務部長	原 武志		
	人口増推進室長	飯島 智		
	人口増推進係長	伊藤 透		
	人口増推進係	宮川 可南子		
議 事	(1) アンケートについて (2) 各種団体との懇談会について (3) 伊那市地方創生総合戦略(素々案)について (4) その他			

配布資料	資料1 アンケート調査結果の概要 (参考) 転入者アンケート結果 転出者アンケート結果 結婚・出産・子育てアンケート結果
	資料2-1 議会実施アンケート結果(子育て世帯(保育園児の保護者)) 資料 2-2 議会実施アンケート結果(新入社員)
	資料3 商工会議所実施アンケート結果(移住者支援求人状況調査)
	資料4 地方創生に係わる各種団体との懇談会 報告書
	資料5 伊那市地方創生総合戦略(素々案)の概要
	資料6 伊那市地方創生総合戦略(素々案)

## 1 開会

事務局：皆様、こんにちは。大変お忙しい中を揃っていただきまして、ありがとうございます。それでは、本日の出席者がそろいました。ただいまから、唐木副会長様の開会の挨拶で始めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

副会長：皆様、こんにちは。ただいまより、第5回伊那市地方創生総合戦略審議会を開催いたします。よろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。会議に当たりまして、あらかじめご報告申し上げます。向山知希委員、二瓶裕史委員、池上裕平委員、唐澤桂子委員、以上4名ですが、本日欠席のご連絡をいただいております。それ以外の方は全員出席ですので、よろしくお願いいたします。それでは、早速協議に入らせていただきたいと思います。審議会の規定によりまして、伊藤会長さんの方で進行をよろしくお願いいたします。併せてあいさつもよろしくお願いいたします。

## 2 あいさつ

会長：皆さん、こんにちは。大変お疲れ様でございます。大変厳しい残暑があったかと思えますと、突然寒くなったりと、不安定な気候が続いています。一時の猛暑と比べますと朝夕はずいぶん過ごしやすくなったと思えます。ただ、昼と夜の寒暖の差がありますので、皆様には体調管理等に十分に気をつけていただきたいと思います。そのような中、5回の伊那市地方創生総合戦略審議会を開催いたしましたところ、皆様大変お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございました。前回の審議会は、伊那市地方創生総合戦略の素々案についてご協議いただき、それぞれの委員の皆様から様々なご意見をいただき、誠にありがとうございました。本日は、事務局の方から先般実施しましたアンケートの結果と、8月上旬に開催されました各種団体との懇談会の結果についてのご報告をいただいた後に、伊那市地方創生総合戦

略の素々案につきまして、改めて提示がされたところでございますので、更にご協議いただきたいと思います。皆様には、本日すでにご覧いただいていると思いますが、特に（３）伊那市地方創生総合戦略（素々案）については、詳細な内容がありますので、それぞれの委員の皆さんのご立場から忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。前は、出席委員全員から意見をいただきましたので、本日も前回同様活発なご意見をいただくようお願いをいたしまして、簡単ではございますけれどもご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 協議事項

#### （１）アンケートについて

会 長：それでは、協議の進行を続けてさせていただきます。最初に、協議事項（１）ですが、アンケートについて、事務局説明をお願いします。

事務局：（説明）

会 長：ありがとうございました。先般、行われましたアンケートの結果についてご報告をいただきました。さらに分析結果についても説明をいただきました。この中で議会からのアンケートをいただいておりますが議長さんからは何かございますか。

委 員：ご覧いただければと思います。

会 長：それでは、ただいまのアンケートの結果についてご質問やご検討があったらお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。それぞれの結果で、特に転出した人の、伊那市の思いというところで、18、19、20歳代で、約6割が伊那市に帰りたい。と答えていると書いてあります。是非この意見を具体化して繋げていくかということになると思いますので、また後程、総合戦略の中でご意見等をいただきたいと思います。それから、転入者の教育について、教育環境は4割と余り重視されていないことが伺えるという一方で、転出者については、子育て・教育環境の満足が3割と低くなっています。コメントに違和感があります。このあたりのことも少し考えていかないといけないと思います。そのほか、何かございますでしょうか。

（意見なし）

アンケート結果報告ということになりますので、よろしいでしょうか。では、アンケートの結果については以上とさせていただきます。続きまして、協議事項（２）の各種団体との懇談会について説明をお願いいたします。

#### （２）各種団体との懇談会について

会 長：各種団体の懇談会について。

事務局：(説明)

会 長：はい。ありがとうございました。5回にわたって行われた各種団体との懇談会の報告ということでご報告いただきました。詳細については、それぞれご覧いただければわかると思いますが、さまざまな意見が出ています。これをどのように戦略の中に入れていくかということになると思います。これについて、質問等がありますか。

(意見なし)

よろしいでしょうか。こちらについても報告ということで、ご覧いただければと思います。それでは(2)はこれで終了いたします。引き続き、(3)伊那市地方創生総合戦略(素々案)についてご説明をお願いいたします。

### (3) 伊那市地方創生総合戦略(素々案)について

事務局：(説明)

会 長：総合戦略は、事前にご覧をいただいているということもありますし、前回も説明をいただいております。前回から特に変わったところ、委員の皆様からのご意見等で修正しているところがありましたらそのあたりを中心に説明をお願いします。前回のものと比べて内容もかなり充実されておりますし、細部に渡って具体策も出ているので、皆さんにはそれぞれの立場でご覧いただき、後ほどそれぞれ質問等をお願いしたいと思います。

事務局：(説明)

会 長：ありがとうございました。前回の会議では、素々案の前の案でしたが、今回は、素々案として提示されました。それぞれご意見を伺いたいと思います。よろしくお願いします。赤羽委員さんからは「ひと、しごと、まち」ということで順序が違うのではというご意見をいただいております。また、ペレットストーブ、薪ストーブの設置、それからそういった中での雇用促進というご意見をいただきました。それから、基本施策の中での「地域」ということばを「伊那市」に変えるべきではないかというご意見もございましたが、それも含めて何かご意見がございましたらよろしくお願いたします。

委 員：私の意見を取り上げていただきありがとうございます。松田委員がいらっしゃいますが、素々案の概要の中に、「伊那市独自の教育風土のもと、幼少期から郷土愛を育む教育を推進します。」とあります。これは都会に行って、勉強しても、ふる

さを思うということである大事な視点だと思えます。ここまで来て右側の具体的な施策を見ると、「学校教育の充実」とありますが、この4項目が私から見ると抽象的です。例えば、幼少期から郷土愛を育む教育の推進というものであれば、先ほど教科書をつくるなどといった説明もありましたが、学校教育の充実の中にもっと具体的に記してもよいのではないかと思います。美篤小学校では、運動会などに信濃の国を歌っています。伊那市の中でおそらく美篤小学校だけだと思います。私たちは小さいころは、小学校の運動会の後には必ず信濃の国を皆で、父兄と一緒に歌った思い出があります。小学校は1年から6年までであるので6回歌います。そうすると、今は4年生だけが長野に行った時に、社会科総合学習の中で信濃の国をバスの中で習って行くようですが、1年から6年まで歌うことはほとんどないです。東京などに行ってしまうと、信濃の国をみんなが歌えないという事態が出てくるのではないかと危惧しています。郷土愛を育むというところのなかで、ふるさとをすぐ思い出す、その思い出す象徴というのが、信濃の国であり、伊那市の歌であり、国歌である、こういうことを推進することが必要だと思います。したがって、具体的な施策の中にも是非そういうことを盛り込んでいただきたいです。政策的に決めなければならないことですから、また皆さんで検討していただきたいのですが、是非、そのような視点を持ってほしいと思えます。以上です。

会 長：ありがとうございます。松田委員からご意見等ありますか。

委 員：今、お話ありました赤羽委員と同感ですが、学校教育の充実の4項目は、どの市町村にもあてはまります。もっと伊那市らしさが表れるようにするにはもう少し具体的に今、伊那市がやっている事実を記載していったほうがよいと思えます。

会 長：実施計画とは違うので、そのあたりはなかなか具体的に載せにくいかなという気もしますが、事務局の方ではいかがでしょうか。

事務局：大変貴重なご意見ありがとうございます。意見をいただいた郷土愛とのアンマッチですが、これは具体的施策に移ってきた場合のこの4項目が抽象的であり、中身があっていないということをご指摘をいただき、私も感じました。そこは書きぶりの見直しをさせていただきます。信濃の国などの個別の施策については、基本的にこの概要書ではなく、柱だてはそういったことも含まれるような文言にしたいと思えますが、具体的な書き込みは本文で例をあげて書き込むようなスタイルでお願いしたいと思えます。この総合戦略は、これからの地方創生に向けて伊那市がどのような視点で取り組んでいくかという方向性を示す重要なものという位置づけもありますし、もうひとつは、事務局的な考え方ですが、これから地方創生を進める中で、国からの財政的支援のひとつの担保という位置づけもございます。ある程度、今後5年間で細かい事業を計画していくときにどこかにおしこめるといふか、ある意味、幅広く、泳げるような書きぶりがあると、交付金や各省庁の補助金が優先的になるということをおっしゃっていますので、そのあたりを総合的に勘案させていただきます。いずれにせよ伊那市のカラーは出さないといけませんし、今おっしゃら

れたような具体的な政策は本文にきちんと例示をして、目立つ形で書き込んでいく向きでの検討をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会 長：そのような事情もあるようです。よろしいでしょうか。先般、板山委員さんからいちごの話も出ましたが、このあたりはどうでしょうか。

委 員：いちごの話は、総合的に農産物として載っているのものでそれで結構ですが、担当である交通についてです。先だって、新聞にも載っていましたが、定住自立圏構想の中で、市長の言葉で、従来、伊那バスでやっていた伊那本線の復活、そして買い物、医療の関係で利用するバス、公共交通を最大のテーマとしてやっていきたいといった言葉がありましたが、そのあたりが戦略に載っていません。それはどこかで入れるのでしょうか。

事務局：定住自立圏の関係ですが、すでに報道もされています。総合戦略で国が求めている4つの柱の中の4つ目に地域間連携、行政、自治体間連携というものがあります。それを受けまして、以前より総務省のほうで、設けられているこの定住自立圏構想があります。これを新たに活用して、総合戦略にかかる交付金とは別の交付金制度を活用し、伊那、南箕輪村、箕輪町など、近隣の町村とも一緒に協力をして地域課題の解決、移住の受け皿づくり、地域リーダーの育成といった内容に取り組んでいくということを予定をしています。これは1、2年後には実際にスタートしていきたいということで、また議会とも相談をさせていただき、条例の整備をこれからお願いするという段取りです。この戦略で申しますと、28ページの下段に書いてございますが、これから実際には、他の自治体との協定がまだこれからということもあり、センシティブな段階であります。いずれにしてももう少しわかりやすいように工夫はしてみたいと思っております。地域公共交通については、以前より交通事業者さん、地域の皆さんと伊那市と協議体を組んで、直営便ではなく、協議体便ということで運行していますが、27ページの下段で、地域公共交通の確保ということで記載をしております。これは今後も見直しをしていく路線が、地域にとっての重要な路線といったものについては今後も維持していけるような取組を地域の皆さんと一緒にやって取り組んでいきたいということで、今年度から地域に入って、受け皿づくりに向けた取組を行っています。その取組についてもPRポイントになるので、もう少し書きぶりを充実していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

委 員：合わせて、JR飯田線の活性化の問題があり、概要の28ページ上段の広域交通網の整備に、新宿駅までの時間を短縮することだと思っておりますが、リニアが開通してからの求めている時間基準が、東京圏90分、名古屋圏60分になります。それに対して時間がかかっている気がします。アクセスになる飯田線として実際にできるかといえば、かなりの時間がかかってしまいます。そのあたりが無理、矛盾があると思います。合わせて地域公共交通の部分で、飯田線の役割を考えていけないと思います。

事務局：これから、上伊那圏域、更に下伊那まで含んでの、リニアの開通まで12年の中で、

いろいろな枠組みで検討会や研究会が進んできております。28 ページの書きぶりですと貧弱なところもありますし、中身が伝わりません。リニアの中間駅の上伊那地域まで、人の流れを呼び込むためには、飯田線との結節もありますが、それだけでは現実的ではありません。2次交通については、高速バスやデマンド交通など、圏域全体で一緒に検討しないとイケません。飯田線につきましては、3市町村を中心に行っていましたが、協議会は発展的に解消し、経済界にも入っていただき、期成同盟会という新たな枠組みで「医療促進」「輸送力強化」「利便性向上」の3本立てで活性化に向けての取組が始まっています。官民協働、地域間連携を実践していく事業でありますので、そのような趣旨の中で、書き込みを検討させていただければと思います。

会 長：飯田線にしても、定住自立圏にしても、ほかの町村の関係もありますが、リーダーとしてつくっていかねばいけないと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。次に松田委員、この間の総合学習、家族ぐるみの移住の促進についていかがでしょうか。

委 員：その前に、6 ページで「この要因として、女性数が減少及び出生率の低下が挙げられ、女性数の増加」とあります。これは言葉を少し柔らかくした方がよいのではと思います。子どもを産んでくださる女性を増やすという単刀直入な言い方ですと、考え方によっては問題になってしまいます。一番問題は、若い女性が東京に流出することが大きな要因となっていますので、ここのところは「低下が挙げられるので、主として女性の流出への対応」としたほうが、文章表現的には問題にならないのではと思います。今の件についてですが、18 ページで「学校教育の充実」で「総合的な学習の推進」をあげていただきましたので、ありがとうございます。ただ教育委員会といたしますと、大きな柱は「キャリア教育の推進」「本格的農業体験を組み入れた食育の推進」「総合的な学習の推進」ですので、大きな柱が見えるようになってくるとありがたいです。事業の内容の最後に「郷土を学ぶ教科書」とありますが、教科書という使い方はしないほうがよいと思います。教科書は文科省の検定を受けないといけませんので、「郷土を学ぶ副教材、資料」としないといけません。それから、「授業が、とても」の下のところに学校の「授業」ではなく、仕事の「事業」になっています。誤字を修正してください。家族ぐるみの移住については、よい案だと思ひほかの方に聞いてみたのですが、まだこの地域で待機している入所希望者が大勢いらっしゃる、事業として打ち立てていくのは、課題があると話を聞いているので、また検討していただければと思います。

会 長：これも含めて検討いただくということでお願いします。教科書ではなく、副教材がよいと思いますので、訂正お願ひいたします。よろしいですか。

事務局：6 ページでは、捉え方は失礼に当たるので、柔軟にやわらかくしたいと思います。

①で自然動態の区分けをしていますので、ここの趣旨は社会移動ではなく、出生率の増加にあがるような視点の書きぶりをする部分でありますので、その辺も含めて

再構成をさせていただければと思います。それから、18ページの学校教育の部分ですが、大変現実にあった形で指摘をいただきました。3本柱が伊那市での教育の姿が際立つような構成にしていきたいと思います。文言の関係はおっしゃられた通り修正させていただきます。最後にCCRCの考え方については、確かにまったく待機がない状況ではありませんが、松田委員さんにも考え方はよいというご意見をいただいていますし、理事者も国が求めている形ではなく、伊那市型の世帯丸ごと優秀な人材を来てもらうよい仕組みだという考え方もありますので、これについては、研究をしていくということで、残させていただきたいです。いかがでしょうか。

会 長：私もそう思います。よろしいでしょうか。日比野委員は高齢者の中心街の定住と、みちの駅をメイン通りにというご意見を前回いただきましたがいかがですか。

委 員：前回発言した中で、高齢者の中心街の定住は含まれた表現で書かれていますので、再度細かいところで少し注意させていただいたら、ありがたいです。みちの駅は、方向性の具体例となりますので、この中では大まかなものとして入っていると思います。これからの取組の中で、検討材料としていただければと思いますので、よろしくお願いします。ひとつ気になりますのが、新しい高速新幹線で上伊那地域が連帯して考えていくというのはひとつなのですけど、駅を持つ飯田がどう考えているのかを考えないといけないと思いました。飯田もPRをしたいと思っております。そこに割り込んで、上伊那がどこまで入っていけるのか。交通の便も含めて、方向性や相手の考え方をリサーチしないといけないと思っております。企業のあり方では、上伊那から下伊那のほうに企業を中心に移ってしまうのではないかと思います。スピード化となりますと、飯田まで車でも40分かかりますので、そこから新幹線で東京や名古屋に行くとなりますと、拠点が少し移動してしまうのではと心配しております。辰野の工場を縮小して飯田に行ってしまった企業があったり、本社が東京で、下伊那のほうに行ってしまった企業もここ数年であります。上伊那に残ってもらう企業が、今後、交通の関係からどのように出られるのか経済界としっかり話し、方向性を出していただければありがたいのですが、駅を持つ飯田の考え方を含めてリサーチがほしいと思います。

会 長：おっしゃる通りかと思えます。事務局はいかがですか。

事務局：リニアを含めた、伊那谷のまちづくりまで該当すると思えますが、リニアを生かした地域づくりの観点では、県のリーダーシップの下で伊那谷の自治体、経済界が入った伊那谷自治体会議という組織があります。今の素々案の中には出てきていませんし、飯田市が中心になっての駅周辺の整備計画など、その会議で調整や意見交換をしていますので、そのようなリサーチなどの取組について触れられるようにさせていただければと思います。企業の誘致は重要で、国では本社機能の地方移転や、産業立地に力を入れて公金を出していますが、そればかりではなく、企業に残ってもらうのも重要な視点となりますので、考え方も見て取れるような形でのリフォームも検討させていただければと思います。

会 長：よろしいでしょうか。ぜひそのようなことでお願いしたいと思います。守屋委員からは、2つの過疎地域を持った伊那市であることを考慮して、特異性を持った戦略をとるというご意見がありました。いかがでしょうか。

委 員：その前に質問させてください。42 ページの小さな拠点の考え方を具体的に説明いただきたいと思うのと、もう一点、地方創生は、少子化、高齢化の中で、地方創生をしないといけない課題がありますが、高齢化に対する記述がこの程度でよいのかという思いがあります。5 ページの最後に、長野県との医療、介護体制の強化、健康長寿などの記述がありますが、伊那市の戦略の中では触れなくてもよいのか。よくわからないので、この2点を教えていただきたいです。

委 員：関連でよろしいですか。同じような考えを持っていて、人口増に力点が置いてあるが、福祉や高齢化、人口減少のところがとても弱いように思います。それに向けて小さな拠点をという記載もありますが、インターネット等を使ったバーチャルマーケットが、本当に高齢化の対策になっているのかわかりません。小さな拠点ということであれば、既存の施設等の有効活用、見直し、保育所の統合、福祉施設にしても予算化や補助金の出所が違うと思うのですが、施設や高齢者が住みやすいような、本当の伊那市にふさわしい小さな拠点を考えていただく事業内容を検討してほしいと、私も守谷委員と同じように考えていました。

会 長：前にも小さな拠点の話は出たと思いますが、その説明も含めてお願いします。

室 長：小さな拠点は、国として交付金の柱立てをしている考え方ですが、今の段階では用語解説を付けていないので、最終版では配慮していきます。もともとコンパクトシティと交通ネットワークの構築から派生している考え方だと思います。人口減少と過疎化など、地域が衰退してしまうような状況をどのように改善していくのかという考え方の一つとして、核となる集落形成を行って、機能を凝縮して、交通ネットワークで結んでいくという考え方から来ています。一方では、過疎地域に住まいを持っている方や、集落の維持はどうなのかということもありますし、非常に大きな課題であります。そういった中で、地方創生の根幹をなす、一番の要因の高齢化と少子化は、第2回審議会でご審議いただいた人口ビジョンの素々案の中で細かな分析をして、将来のシミュレーションを行いながら、どのような方向性がよいのかという考え方を示しており、それを受けて戦略ができるというのが本来の流れであります。ですが、表現が弱いと思いますので、再検討させていただければと思います。保健福祉関係の事業の中身は、保健福祉部と調整なり、意見をつないで、再度検討します。伊那市の総合計画で後期計画が進んでおりますが、いくつか重要な高齢者施策に係るようなものが、目標値付きで掲載されているものがあり、こちらに取り組んでいくことも必要だと思いますので、庁内調整をしていきたいと思っております。5 ページの医療介護体制の強化ですが、県との整合については、これも併せて、庁内検討で対応していきたいと思っております。

会 長：福祉事業をしていないわけではなく、やっているのですけれど、総合戦略の中に

は入ってきにくいとご理解いただきたいと思います。今、所管課としては整理するという事ですので、お願いします。次に、新山の学校の良さを発信するご意見をいただいた池上委員は何かご意見ございますか。

委員：そのような地域にいるので、どうしてもそのようなところが目に付いてしまいますが、大きな枠の中に入ってくるので、あえて強調することはないのかと思います。財政面で、全国に比べて長野県の医療費は低くなって、ずいぶん前ですが、長谷村はまだ低かったというのがあって、全国的にもモデルケースになっています。健康で長寿命も、全体の地域をいきいきとさせる意味では非常に重要な視点だと思います。具体的にいろんなアイデアがあると思いますが、そのようなものもひとつの視点としてはよいのかと思います。どこの何ページに含まれるのかは、また検討していただければよいと思いますが、高齢化、少子化も間違いないので、楽しく健康で暮らせることが、生きる上でポイントとなります。悲観的な意見にいてしまいうのですが、多少は前向きなものもあってはよいのではと思います。

事務局：健康長寿は、長野県が一番力を入れている取組であります。医療費の問題もありますが、伊那市でも食品産業の展開、信大の農学部や医療産業の皆さんとのビジネスモデル等いろいろな取組をしております。幅広い健康長寿につながるようなものもありますし、今後、取り組んでいくテーマとして重要だと思います。県との整合も図りつつ、検討させていければと思います。

会長：下島委員から子ども職場体験の詳細と、プレミアム商品券について、前回ご発言がありました。ご意見ございますか。

委員：職場体験も含め、学校教育ですが、会議や公演会など、信州型コミュニティスクールで事例発表や勉強会を体験しています。伊那市でしたら、一昨日、伊那北小学校で応援団という形で、地域に協力している事例がありました。信州型コミュニティスクールとのリンクで、伊那市は学校が多いということもあるので、小中校一緒にまとめることは難しいですが、辰野は小中高連携して、協議会が各学校でまとめて、そちらとの連携で郷土を学んでいます。当然、職場体験も含まれています。教育委員会との絡みもあると思いますので、その中でご検討いただき、伊那市の独自性をだしていただきたいと思います。プレミアム商品券については、ぶらり券とも取り扱っていますが、利用者が多く、評判がよいです。いろいろ国との関係もあるかと思いますが、毎年違った形でも続けていただければありがたいです。お金の流れる伊那市であってほしいと思います。

会長：そのような意見がありました。

室長：職場体験については、キャリア教育に称されるような教育施策と、商工会議所を始めとする経済界との連携・協力の下で行っております。将来の産業の担い手の育成でもあり、郷土愛の醸成で定住先として伊那市が選ばれると、まさにリンクするわけですので、その間の流れ、表現は整理させていただきたいと思います。学校教育についての記載は政策の柱の際立った形で、教育委員会にご指導いただく

中で整理をさせていただければと思います。それから、事業実施でプレミアム商品券は、今回、国の地方創生交付金の先行型で、まず経済を活性化しようということで、ピンポイントに事業があり、伊那市も取り組みをいたしました。今後もと  
いう話であります、これは国政がどうなるかということにもよりますけれど、  
担当部局で効果検証をして、そのようなことを踏まえて、今後継続していくのか、  
財源があるのか、総合的な検証をさせていただきながら、実施計画の分野になって  
くるとは思います、別途検討させていただきます。

委員：下島委員の付け足しになりますが、4ページに信州創生のための戦略というの  
がありまして、一番最初の「新たな働き方」に「農ある暮らしで自らの糧をつくる、  
自然の中で子どもを育てる」とあります。ここに深く関連するのですが、18ペー  
ジの「本格的農業体験を組み入れた食育の推進」にもし入れることができるならば、  
『農業体験を取り入れた食育事業「暮らしの中の食」を推進』と、『この事業を中心  
とした伊那市独自の信州型コミュニティスクールの推進』としていただくと、伊那  
市としては暮らしの中の食を中核とした信州型コミュニティスクールを目指してい  
ますので、より際立ってくると思います。ご検討ください。

会長：検討をお願いします。矢島委員は結婚相談所の情報交換についてご意見いただ  
いていたと思いますがいかがですか。

委員：16ページで結婚・出産から子育てまでの支援の充実で、伊那市の状況を書いてあ  
り、30歳から40歳で7%ずつ、独身の人が多くなっているのが問題だと思います。  
また、出会いサポートセンターを設置して、婚活イベントなどの運営や、登録者同  
士のマッチング、相談員のフォローアップなどの場を設けてもらうことが書いてあ  
りますが、結婚して子どもを育てることが、大事なことであるということ、若い  
人により意識するような話をしてもらう場も取り入れてもらい、長野県マッチング  
システムへの登録を進めるなど、伊那市の結婚相談所をより活用していただけるよ  
うにしたいです。

事務局：前回意見をいただいた中で、いろいろな機関で情報共有ができていないことにつ  
いてご指摘いただきました。表現上不十分だと思っています。実際にそれぞれ、  
市では保健福祉部でサポートセンターを持っていますが、また農協や社協もいろ  
ろありますので、いかにすれば連絡調整や情報共有できるのか検討していく取組を  
将来に向けて記載していくよう検討してまいります。また、伊那市は全国に先駆け  
て出会いサポートをやっていますが、登録は進んでいるものの、登録者が固定化し  
てしまい、新しい人がいないと聞いております。先日、統計調査では、若者の非婚  
化、晩婚化の原因は、異性との付き合いが面倒であることと、異性との交際よりも、  
自分の時間を大事にしたいということでありまして、そのような状況の中では、例  
えば山婚など、昔のお見合いではなく、趣味の場で自然の流れでマッチングにシフ  
トしていく必要があるのではないかとされていますので、将来的な方向性を表現  
の中で補強していければよいのかと感じました。

副会長：関連して、K P Iの数値ですが、事業を通じた結婚者数は、合計特殊出生率が平成 42 年に 2.07%になるためのいろいろな項目なのですが、事業の実施回数を増やして、相談回数が増えても、実際結婚者数は、平成 26 年の実績よりも一人少ないK P Iで、目標とすると弱いのではないかと感じています。P D C Aで重要な政策とそうでない政策と切り分けしていくことになると思いますが、全体的なK P Iをやや弱めにして達成率が上がって、国から補助金をもらうという目論見があるのであれば別ですが、2.07%にするのであれば、結婚者数が 1.5 倍にするなど、ほかの項目も含めてK P Iの設定の方法と、中にある考え方があれば、具体的にこの項目だけで結構ですので教えていただきたいです。

事務局：おっしゃる通りだと思います。個々の事業の基本的な組み立てや、K P Iの設定については、数値の根拠を握っていないのが実情でありまして、全体目標を 2.07%までに持っていくまでのスケジュールと、実際のアクションプランに降りてきたときの平成31年の10人と今より目減りしてしまうものはいかがなものかだと思います。全体の大きな目標と、個々のK P Iが合わないと思いますので、庁内調整で時間をいただき、担当課の現在の指標値を設定した考え方と市として大きな目標を掲げておりますので、そこの整合をいかに図っていくか、そのためにはここに更にどのような施策を加えないと実現しないか。そこまで解析しないと、数値は掲げたがとてても実現できないところでありますので、宿題とさせていただきますと思います。

会 長：前回の委員の確認だけさせていただきますと思います。高嶋委員さんは、全体のスケジュールをご質問されたと思うのですが、それについてはよろしいですか。他にはなにかありますか。

委 員：人口減少時代で何とかしないといけないと、我々も取り組んでいますが、出生率が少ないというのが今後大きな問題ですので、どのように子育て支援をやっていけば、少しはよくなるのかと考えています。先ごろ、伊那市議会で市民との意見交換会をやりました。いろいろ忌憚のない意見をいただいたのですが、出生率の低下や、結婚していない若者がたくさんいる状況で、市で応援できないかという声を多く聞かされました。この中に出会いサポートセンターも載っておりますのが、もう少し言ったらありきたりではなく、もっと充実したようなことを書いてもらえればと思います。成人式で若い人たちに聞くと、ここに住みたい人が多いです。ですが、働く場が少なく、大学を出てしまうと、そのままそこで就職して帰ってきません。若い人が働ける場所を、企業を誘致しないといけないということで、市の方も一生懸命やっています。これに載せてありますが、そちらの方も充実してほしいと思います。実際のところ何社か来ていて、来週、竣工式もありますが、工場用地も売れてきています。どこの市町村でも企業誘致をしているので大変ですが、みんな上手くまとめてくれていると思います。南アルプスのジオパーク、エコパークも、実は南アルプス市の皆さんからの長衛祭で毎年行きあうものですから、一緒に連携して何かできないかと申し込みがありまして、今度、南アルプス市へ議員全員で行くよう

になりました。交流して一緒にこれだけの大事な財産を売り出していこうということでやっておりますので、それもここに関連市町村で連携するとなっておりますが、もう少し強く書いてもらってもいいかと思えます。もっと全体でもみんなでやっついこうとしていますので、だいたい概ねうまくまとめてくれていると思っています。

会 長：今、二瓶委員お越しですが、前回の発言されたことがどのように修正されているかをお伺いしていますが、時間が無くなってしまい、ごめんなさい。何かございますか。

委 員：遅くなり、すみませんでした。資料も今事務所に寄って、初めて開きました。昨日資料がきて、確認できていません。今、たまたま21ページを開いたところで、誤字を見つけましたので、修正をお願いします。内容的には、もう少ししっかり読みたいと思います。

会 長：またよく目を通してお願いしたいと思えます。そのほかご発言ございますか。

委 員：一点だけ確認ですが、伊那谷のすばらしい自然を資源として、活用していくところがあるのですが、継承していくところを確認したいです。先ほど財産という言葉が出ましたが、いただいたアンケート結果の住環境の中で、伊那市に住んで満足している人は7割半ばで、緑や水辺など自然が多いところに魅力を感じています。活用もあります。人や文化によって形成されてきた自然をいかに継承していくか、財産や資源にして活用していくことも大事ではないかと思っています。人が住めば、道路交通網も必要になってきます。自然との共生の中でつくられていきますが、時として自然をこわすということもあると思います。道路ができれば、派手な看板ができます。それで本当によいのかなど。自然エネルギーの有効活用で、太陽光パネルが大規模に設置されるというと、大事なことですが、自然との共生ができていのかと考えると、伊那谷の自然を守る施策と絡めるとよいのではないかと思います。もう盛り込んであるとすれば、私の意見として聞いておいていただければ結構です。

事務局：今おっしゃられた流れは、継承されなければ活用されませんので、もう少しストーリーとしてわかるような表現を検討させていただければと思います。

会 長：そのようなことでお願いします。そのほか何かよろしいですか。

副会長：地方創生総合戦略にはハード事業がないということで、建設関連では、広域交通の整備と書いてありますが、リニアも来るので、人が来るように152号等の道路整備についても考えてほしいです。地方創生の中に建設の考え方もさらに入れていただきたいと思っています。バイパスができれば、伊那市中心に人が必ず集まって来ますし、ぜひ伊那市中心からやっていただければと思います。

事務局：前回も同様な意見ももらっていますが、今回の地方創生戦略は基本的にソフト事業を中心になっていますが、考え方によっては、広域ネットワークの構築は、インフラの整備がないと成り立たないのもありますので、上手に盛り込めるところはもう一度検討させていただきます。ただハード部門がひとつの柱としての構成は、制

度上難しい面もありますが、いずれにしろ工夫させていただきます。

会 長：検討よろしくをお願いします。そのほかありますか。

委 員：私は保育園の全保護者連合会の代表をして来ています。保育園関係では未満児の受入や兄弟で園が違ったりとそういったこともありますので、このK P Iの数値のとおりとなれば、保育園としては大きな魅力となると思います。

会 長：わかりました。ほかにございますか。先ほど、人口の将来展望を弱いとおっしゃられましたが、私は逆に強いと思いましたがいかがですか。

副会長：人口は強いのですが、この人口にするにはこのK P Iの数値が弱すぎると感じました。

会 長：県との整合性を取ったと説明がありましたけれど、この数値が基本となりますので、根拠をはっきりしたほうがよいと思います。

以上、ご意見をお聞きました、そのほかよろしいでしょうか。

(意見なし)

特に意見がないようですので、(3)の素々案については以上とさせていただきます。

#### (4) その他

会 長：「(4)その他」であります、林委員から発言したいということですので、資料等もありますので、お配りしてご意見をお聞きしたいと思います。

委 員：各地元の皆様からの意見が出揃っていると思います。私は地元の意見ではなく、全体論について話させていただければと思っています。先ほど、素々案の2ページにも書いてありますが、伊那市の総合計画の関係性は地方総合戦略に関しては重要だと思えます。後期基本計画との整合性を図るということで、これは後期基本計画ではないので、あくまでもそこに加えて、基本的には自然減の抑制や社会像の転換、仕事・収入の確保ということで、基本的に特化した形でつくっていただく必要があると思います。皆様のご意見で高齢者の部分が薄いとありましたけれど、場合によってはどちらかにシフトしていくという考え方もあると思います。伊那市の特徴を出していくためには、地方創生戦略はその部分を特に強化しますという形でウエイトをかける必要があると思います。ただ、まだ未検討の段階で高齢者について戦略に入っていなかったということではいけませんので、検討したうえでどちらにウエイトをかけるかの判断は必要だと思えました。それと連動して、基本的に国はプランがありません。その中で伊那市では、今いる人と、これから帰ってくる人、新しく来る人で、どこにウエイトをかけていくのかしっかり考えなければいけないと思います。基本的にお金を使わなくてもできるソフト事業や、知恵や工夫でできるこ

と、夢を達成するためには我慢することも必要です。その部分がまったく触れられていない状況ですが、書く、書かないにしても、公共施設の管理などをどうしていくのか検討する必要があると思います。一番気になったのは、広域連携についてです。伊那市がやる部分、周辺市町村に協力していただく部分など、今後広域連携が絶対必須であり、そのような視点をいれることで伊那市の総合戦略は総合計画の焼き直しではない意味のあるものになってくると思います。広域的な対応は、早いうちに取りかかっていただく必要があると思いました。また、K P Iは何かということ理解する必要があります。指標でつくればよいということではなく、何故これになったのかという因果関係や理由が言えなければ意味がないと思いますので、きちんと改めて確認していただく必要があると思いました。全部上がる必要はないと思います。K P Iの設定したデータをここは抑えるということが説明できれば、伊那市はどこに重点を置くかを説明できると思いますので、強調していただきたいです。昨日、別の市町村の創生戦略会議に行ってきましたが、その自治体は比較的小さく、数年後には住民からの税金が少なくなった時に、何ができるかということをお話しました。現実的にお金に依存しないことも必要ですし、どこにその中でシフトしていくのか、伊那市は大きいので現実味がありませんが、真剣に考えていく必要があると思いました。ほかにはない計画を伊那市ではつくってもらいたいです。

配らせていただいた物を紹介しますと、先ほどから何度かございましたけれど、教育ですね。私は今、大学にいるわけですがけれど、どのように人を連れてくるか、特に18歳人口の流出を防ぐというところでは、地元にある大学としては大変重要な役割を担っていると思います。では、大学として何ができるのかということ、定員を増やすことはできないが、地元の人が行きたいと思ってもらえる、全国の人が来たいと思ってもらえる大学にしていこうためにはどうしたらよいかということ、いろいろ模索しております。9月17日に、地の拠点の大学が地方創生において何が関わられるのか、地方の各自治体や皆様からどんなことを期待されるかを改めて明らかにして、自分たちの計画に組み込んでいく機会を持ちたいと思っています。我々も学生を育てるだけでなく、地域の人の力を借りたり、育成していく方にも力を入れていきたいと思っています。このような分野、中山間地域の問題や環境行政、芸術・文化、長野県において非常に大事なテーマだと思っていますので、このようなところに関わる人材育成事業を展開していますので、もし興味がありましたら、皆様に紹介や参加いただければと思っています。

会 長：ありがとうございます。さまざまなご指摘をいただきましたが、そのような視点を含めて、さらに素案として素晴らしいものをつくっていただきたいと思っています。

事務局：大変ありがたい意見をいただきました。これはまさに事務局の悩みでもあります。戦略でありますので、マスタープランではなく特徴をもった、伊那市が5年間を見据えて何に力を入れてやっていくかを色濃く出したい反面、やはり地域に出していったときに、説明会をすると、関係分野の人たちに自分のところが入っていない

いのはいかがなものかとお指摘を頂きます。いつも非常に悩ましいところではあるのですが、もともとの国が想定をして市町村がつくっている戦略は、できるだけ見たときに際立つような、伊那市は今後5年間何に力を入れるのか、最低限そのことが見えるかたちで表現したいと思います。それから、KPIは、今いくつで、これを何年後にどうする、なぜそうなっているのかという途中のプロセスがわからないと思いましたが、この中には難しいので、別に一覧表でアクションプランを起こして見比べられる、見たときにこれがおかしいとわかるようなものを、次回最終回でもありますので、整理をしたいと思っています。それから、広域連携の件は、これからは国も自治体間・地域間の連携について、積極的に支援をしていくスタイルとなっており、戦略の肝となる部分でもありますので、連携事業については、自治体間で定住自立圏もそうですが、すり合わせをしながら、実効性の高いものにしていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

会 長：よろしくお願ひします。そのほかよろしいですか。予定した時間になりました。特に皆さんの方からご意見が無いということであれば、次回には素案を提出していただけるということで、本日の会議を閉めたいと思いますけれど、よろしいでしょうか。

#### 4 その他

委 員：次回の日程はどうなのですか。

会 長：次回の日程をわかりましたら、教えてほしいです。

事務局：慎重な審議をありがとうございました。本日の意見を最終の素案づくりに向けて反映してまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。では、次回の日程は、10月7日（水）午後2時から2時間程度でお願ひしたいと思います。特に大きな修正が当日なければ、次回をもって策定に向けましては最終回と考えております。それは次回の審議の状況によるということですが、今後のスケジュールは、市長へ答申をいただいて、議会にも報告させていただき、成案になりましたら、住民への周知等あります。初案ということで念をおきますが、国から10月末までに初案を出して、その後、さらに変更、あるいは新しい事業があればそれを加えつつ、来年3月の年度末に第一次改訂版を出したいと思います。それに向けまして、回数はわからないですが、会長さんに相談させていただいて、また審議会を開催する予定です。これで終わりではないことだけ承知いただきたいと思います。それからもう一点、本来この戦略は、国からの議会との両輪が非常に明確に謳われております。したがって、審議をいただきました素々案につきましては、本日意見をいただいたと同様に、31日（月）に9月定例会において、意見を求めたいと思いますので、また伊藤議長さんにはよろしくお願ひしたいと思います。そのようなことでご承知

いただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

会 長：31 日の議会の全員協議会の中で報告させていただくということですね。わかりました。それでは進行を事務局へお返しします。

## 5 閉会

事務局：それぞれの立場で大変たくさんの意見をいただきました。ありがとうございました。それでは、矢島副会長さんの方で閉会の締めをお願いいたします。

副会長：それでは、皆様大変お疲れ様でした。審議会を重ねる中で、山登りで言うと 8 合目まで来ているのかと感じています。事務局の皆様もあと 1 か月ですのでがんばっていただき、次の審議会では皆さんよい形で素案が提出できればと思います。何かあれば事務局に直接お問合せいただければと思いますが、本日はお疲れ様でした。以上で審議が終わります。

一同：ありがとうございました。